

平成23（2011）年度 社会福祉法人あかつき福社会
事 業 報 告 書

社会福祉法人あかつき福社会

1. 全体概要報告

今年度の大きな特色としては、長年多くの市民から要望が寄せられていた「箕面市障害者ショートステイ室（短期入所・日中一時）」の拡大移転ができたことである。

瀬川地区の「わんすてっぷ」（重度障害者市民自立生活支援棟）を改修・増築し、定員を増やす計画を箕面市に提案し協議を進めた結果、3床から8床にするための市の補助金も得て4月20日に完成した。

また、「地域生活総合支援センター」をライフプラザから瀬川地区に移し、あかつき園・ワークセンターささゆりとの一体的な運営を図っていく体制を確立した。

内部的には時間外労働の削減や支援職員の処遇の見直しなど、より働きやすい職場環境の整備を行うとともに、事務局長の新設、総務課長職や新卒者の採用、一般職の主任等への昇任を行い、持続可能な組織としての体制を強化した。

2. 総務課

(1) 概要

○今後、自主・自立を目指していく中で、組織体制の課題（若年層の不足、管理・監督職の不足）を解決するため、事務局長の新設、総務課長（1名）、新卒者（2名）の募集・採用を行うとともに、同僚部下評価や所属長推薦等により、一般職の監督職への昇任（5名）を行うなど、組織体制の強化を図った。

○労務管理面では平成23年2月と11月に労働基準監督署の改善勧告を受けたことから、各職場の休憩時間の確保と時間外勤務の管理を徹底した。その中で、大幅な時間外勤務の軽減につながったことから、その人件費支出の削減分については、「支援職員」の処遇改善に活かすこととし、平成24年度から支援職員に対し「処遇改善手当」を支給することとした。

○地域に根ざした法人経営を目指していく中で、「より多くの方にあかつき福祉会を知っていただく」ことを目的とし、あかつき福祉会ブログを10月に立ち上げ、法人の取り組みや各事業における日々の出来事などを随時掲載してきた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 経営課題について各種プロジェクトチームを立ち上げ、具体的検討を開始する。	1. について ○給食事業の安定継続 大幅な赤字になっていたことから、各職場代表による給食関係者会議を設置し、現状の検証や他法人の調査などを行い、平成24年度からの職員負担額を400円に値上げし、年間200万円弱の収支改善を図っ

	<p>た。</p> <p>○あかつき園の将来構想の検討 築33年を経過し老朽化してきたあかつき園については、箕面市健康福祉部とあかつき園の将来構想（施設機能・規模等）について、意見交換を随時行った。</p> <p>○支援職員の処遇改善 60歳未満の支援職員29名を対象に処遇改善手当として、1人あたり平均11,387円/月を平成24年度から支給する。</p>
<p>2. 法令等遵守の状況を的確に分析し、問題点等の検証・改善する体制を整備する。</p> <p>(1) 内部統制に係る規則等の整備 (2) 苦情相談員（第三者委員）の機能強化 (3) 外部の第三者評価制度の利用</p>	<p>2. について 労基署の勧告に対して速やかに改善を行った。また、法令遵守の仕組みとして「社会福祉法人あかつき福祉会業務管理体制規程」を制定した。</p> <p>(2)(3)については、この規程に基づき積極的に取り組んで行く。</p>
<p>3. 時間外労働の削減とメンタルヘルスケアの充実を図る。</p> <p>(1) 勤怠管理システムを活用し、労働時間の把握と管理の徹底 (2) 時間外労働のあり方の見直し (3) メンタルヘルスに係る制度の整備</p>	<p>3. について 所属長による時間外勤務命令を徹底することで、大幅に時間外労働を軽減できた。</p> <p>メンタルヘルスの研修会を実施し、職員の問題意識の醸成等から取り組んだ。</p>
<p>4. 人権研修を強化する。</p> <p>(1) セクシャルハラスメント・パワーハラスメント研修の実施 (2) 虐待に関する研修の実施</p>	<p>4. について 研修内容について下記内容に変更・実施した。</p> <p>①東 俊裕氏の講演会 10月25日 参加者＝44名</p> <p>②産業保健師による 職場のメンタルヘルス研修会 12月20日 参加者＝26名</p> <p>③弁護士による コンプライアンス研修会 1月20日 参加者＝31名</p> <p>④人権研修については、箕面市主催の各種</p>

	<p>人権研修に多くの職員が参加した。</p> <p>また、各職場において臨時職員等の採用時には、利用者の人権・呼称（～さん）・対人援助における支援姿勢について、研修を実施した。</p>
<p>5. 新会計基準を理解し、平成24年度移行に向けて手続きを行う。</p> <p>(1) 外部研修への参加</p> <p>(2) 顧問税理士、公認会計士等との連携</p>	<p>5. について</p> <p>平成27年4月移行を目指し、情報収集に努めるとともに、23年度は顧問税理士による、定期的なチェックを実施し状況把握及び新基準移行時の課題抽出などを行った。</p>

(3) 今後について

<p>○効率的・合理的法人経営を推進していくため、業務の効率化を図るとともに、頑張った人が報われる人事制度の構築や支援職員、臨時職員の処遇改善を図っていく。</p> <p>○ホームページのリニューアルや、定期的なブログ更新などを行い、情報受発信機能を強化する。</p> <p>○社会的責任を果たすため、他団体への講師派遣や内部研修の一般開放など、地域社会へ支援ノウハウや研修機会の提供などを行う。</p>
--

(4) 理事会・評議員会開催状況

①理事会開催状況（全4回開催）

第1回理事会（第1号議案～第6号議案、報告第1号）

開催日＝4月27日

案件＝職員給与規則の変更、評議員選任、医療的ケアに係る改善報告書の提出について など

第2回理事会（第7号議案～第8号議案、報告第2号～報告第3号）

開催日＝5月27日

案件＝定款施行細則の一部改正、平成22年度決算認定、介護職員の医療行為調査委員会の答申について など

第3回理事会（第9号議案～第12号議案、報告第4号～報告第6号）

開催日＝8月24日

案件＝箕面市障害者ショートステイ室及びわんすてっぷの移転について、介護職員の医療行為に係る職員懲戒審査委員会からの答申及び処分について など

第4回理事会（第13号議案～第28号議案、報告第7号～報告第14号）

開催日＝3月28日

案件＝職員就業規則等の一部改正について、地域生活総合支援センターの移転に

ついて、定款変更・定款施行細則等の一部改正について、労働基準監督署の是正勧告および指導について、平成24年度事業計画及び予算について、総務課長・正規職員（一般職）の採用について、役員選任について など

②評議員会開催状況

第1回評議員会（第1号議案～第5号議案）

開催日＝4月23日

案件＝職員給与規則の変更、医療的ケアに係る改善報告書の提出について など

第2回評議員会（第6号議案～第7号議案、報告第1号～第3号）

開催日＝5月26日

案件＝定款施行細則の一部改正、平成22年度決算について、介護職員の医療行為調査委員会の答申について など

第3回評議員会（第8号議案～第10号議案、報告第4号～第6号）

開催日＝8月23日

案件＝箕面市障害者ショートステイ室及びわんすてっぷの移転について、介護職員の医療行為に係る職員懲戒審査委員会からの答申及び処分について など

第4回評議員会（第11号議案～第26号議案、報告第7号～第13号）

開催日＝3月26日

案件＝職員就業規則等の一部改正について、地域生活総合支援センターの移転について、定款変更・定款施行細則等の一部改正について、労働基準監督署の是正勧告および指導につて、平成24年度事業計画及び予算について、総務課長・正規職員（一般職）の採用について、役員選任について など

3. 箕面市立あかつき園

（就労継続支援B型：定員10名・自立訓練【生活訓練】：定員10名）

（1）就労継続支援B型

①概要

- 前年度同様、「働くこと」を中心に、箕面市障害者事業団での職場実習を中心とした施設外支援を積極的に実施した。
- 進路支援としては、ご本人・ご家族の意向を踏まえ、必要に応じ、体験実習を実施するなど、できる限りきめ細やかな進路支援を行い、2名について市内障害福祉サービス事業所への移行につながった。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 雇用就労を目標に置いたステップアップ	1. について 施設外支援として、箕面市障害者事業団で

<p>(1) 箕面市障害者事業団・就労移行支援事業所等との連携</p> <p>(2) 職場体験実習等施設外支援の重視</p> <p>(3) (仮称) Uターン利用制度の検討</p>	<p>の職場実習に8名、延べ65日実施した。</p> <p>(1)及び(3)については、利用者の実態及びニーズと合致しないため、未実施となった。</p>
<p>2. 多様な障害特性の理解と、理論的根拠に基づく支援技術の向上</p> <p>(1) 自閉症などの障害特性に応じた、支援の実践・検証</p> <p>(2) 専門家(支援アドバイザー・主治医・嘱託医)の助言・指導</p> <p>(3) 支援技術向上のための研修参加と研修成果の共有・活用</p> <p>(4) 利用者個々の支援の標準化</p>	<p>2. について</p> <p>支援アドバイザー・嘱託医の活用とその結果を職員間で周知した。</p> <p>また、週1回の会議、年2回のケース会議において利用者個々人の支援の方向性の共有化を図った。</p> <p>(3) (4)については、製袋生産体制の強化の必要性から未実施だった。</p>
<p>3. 社会資源の情報提供・助言</p> <p>(1) 個別面談や家庭訪問等による情報収集</p> <p>(2) 障害福祉サービスに係る情報提供</p> <p>(3) 相談支援事業者等関係機関との連携</p>	<p>3. について</p> <p>進路支援において、市内の障害福祉サービス事業所14ヶ所の情報提供を行うとともに、利用者自身が事業所等を見学する機会を適時提供し、明光ワークスの「生活介護」へ1名、シエスタの「就労B」へ1名の移行につながった。</p>

③今後について

<p>○箕面市障害者事業団の職場体験実習に積極的に参加するなど、利用者の就労支援を行うとともに、安定経営を目指す中で、定員を充足できるよう市内の相談支援事業所等との連携を図り、利用者の受け入れを図っていく。</p> <p>○自立訓練(生活訓練)と併せて市立あかつき園の再構築に向け機能・役割について検証・見直しを行う。</p> <p>○製袋事業においては、箕面市し尿中継所(倉庫)に代わる製品保管場所について、敷地内の温室の有効活用等を図り、より効率的な保管場所を確保していく。</p>

④主な活動内容

ア. 生産活動

○箕面市指定ゴミ袋の製造・配布

生産活動内容	平成23年度	平成22年度	平成21年度
年間売上金額	74,470,791円	73,987,479円	61,713,844円

○利用者1人あたりの月額平均工賃額（特別工賃を含んで換算）

	平成23年度	平成22年度	前年比
就労継続支援B型	56,095円	31,618円	177.4%
生活訓練	13,517円	13,375円	101.1%

イ. 職場実習

○箕面市障害者事業団職場実習参加状況

参加人数（実人数）	8名	<職種内訳>	緑化（花壇・リース）	6名 49日
参加のべ日数	63日		喫茶るうぷ	2名 14日

ウ. その他の活動

- 園外活動（社会見学、進路移行先候補事業所見学）
- 作業活動（館内清掃）
- 健康維持活動（ウォーキング、ダンス、ラジオ体操）
- 日常生活・社会適応訓練
（対人関係、コミュニケーション、マナー、移動能力の獲得、電話・お金の使い方、興味や関心高めるための取り組み）

⑤在籍者状況

項目	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数		
H23年度	10名	23.8歳	6.9年	94.0%	10.3名		
H22年度	11名	25.0歳	6.5年	94.1%	10.4名		
H21年度	52名	26.4歳	7.7年	94.7%	49.8名		
H23年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	不明
	0名	1名	4名	4名	1名	0名	0名

* H21年度の実施事業は知的障害者通所授産施設（定員50名）

* H23年2月末にて1名進路支援により他事業所へ移行

(2) 自立訓練【生活訓練】

①概要

- 社会生活を送るうえで必要な知識や技術を多様な体験の中で獲得していただけるよう支援を行った。
- 種々の困難なケースにおける支援として、感覚刺激への配慮、環境整備、行動予測に基づく支援、不快時の単独空間の提供などをおこない、嘱託医・主治医・支援アドバイザーの助言を仰ぎ、支援の方向性や方法について検証を行った。
- 本事業生活訓練の事業形態に移行後2年目を迎えた年度となったこともあり、計7名の進路支援を実施しワークセンターささゆりへの移行につなげた。いずれの場合もご本人・ご家族の意向を踏まえ、必要に応じ、移行先候補事業所の見学を実施するなど、できる限りきめ細やかな進路支援に努めた。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 訓練期限を迎える利用者の進路支援 (7名)個別支援計画実施結果の評価及び、当事者・家族の意向をふまえたうえで、適切な進路先への移行を図る	1. について 個人面談を実施し的確にニーズを把握するとともに。見学の機会の提供などできる限りきめ細やかな進路支援に努めた。
2. 多様な障害特性の理解と、理論的根拠に基づく支援技術の向上 (1) 自閉症などの障害特性に応じた、支援の実践・検証 (2) 専門家(支援アドバイザー・主治医・嘱託医)の助言・指導 (3) 支援技術向上のための研修参加と研修成果の共有・活用 (4) 利用者個々の支援の標準化	2. について 困難ケースにおける支援策として、積極的に障害特性に応じた環境整備を図った。また、嘱託医・主治医・支援アドバイザーに助言を仰ぎ、その結果を職員間で周知するとともに週1回の会議、年4回のケース会議において個々の利用者について支援の方向性の共有化を図った。
3. 社会資源の情報提供・助言 (1) 個別面談や家庭訪問等による情報収集 (2) 障害福祉サービスに係る情報提供 (3) 相談支援事業者等関係機関との連携	3. について 進路支援に関わる市内社会福祉サービス事業所14ヶ所について情報提供を行うとともに、利用者自身が見学する機会を提供した。

4. 利用者の増減に対応する、仕組みの検討	4. について 支援学校新卒者以外の新規利用者の受け入れについて、箕面市と協議の上対象者の臨時的な拡大を図った。 他方、過去2年間の利用者の障害状況や支援度などを踏まえ、今後の事業のあり方について検討を行った。
-----------------------	---

③今後について

<p>○新規利用者7名の円滑な利用に繋げるため、利用前面接等事前の状況把握と事前情報と実際に支援した結果を踏まえ、早期に支援の要点を明確にした的確な個別支援計画の立案と実践・検証を行う。</p> <p>○移行対象となる2名については、市内の障害福祉サービス事業所に係る情報提供及び斡旋調整を行うとともに、体験実習を実施し、選択・検討する機会を提供するなど、円滑な移行に繋げていく。</p> <p>○就労継続支援B型と併せて市立あかつき園の機能・役割の再構築に向け検証・見直しを行う。</p>

④主な活動内容

- 園外活動(社会見学、進路移行先候補事業所見学)
- 作業活動(農園、空き缶リサイクル、館内・館外清掃、ペットボトルキャップ選別)
- 健康維持活動
(ウォーキング、ダンス、ラジオ体操、水泳、スポーツセンター、レクリエーション、嘱託医相談)
- 日常生活・社会適応訓練(買い物及び調理活動、図書館利用)
- 社会活動(地域清掃、公園清掃活動)
- 創作や音楽活動(季節に応じた創作活動、音楽療法・各種音楽催しへの参加)

⑤在籍者状況(平成24年3月31日現在)

項目	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数		
H23年度	9名	22.0歳	4.0年	97.2%	8.8名		
H22年度	7名	21.9歳	3.9年	97.5%	6.8名		
H21年度	52名	26.4歳	7.7年	94.7%	49.8名		
H23年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	不明
	0名	2名	5名	1名	0名	0名	1名

* H21年度の実施事業は知的障害者通所授産施設(定員50名)

4. 箕面市立ワークセンターささゆり（生活介護：定員60名）

（1）概 要

- あかつき園の事業移行に伴う定員拡大後2年目にあたり、2階部分（あかつき園からの移行者が多数おられるグループ）を中心に、多様な障害特性に対応し、サービス向上を図るためのチーム編成について検討を行った。
- 進路支援については、ご本人・ご家族の意向を踏まえ、市内他の事業所の情報提供や施設見学会の実施及びご本人への体験実習の機会を提供するなど、きめ細やかな進路支援に努めた結果、14名の移行につながった。しかしながら、重度重複障害（重症心身障害）のある利用者の移行については、他法人の事業所での受け入れは極めて困難な状況であり、14名中3名については当法人が経営する「ささゆり園（生活介護）」と「わんすてっぷ（生活介護）」への移行となった。

（2）重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
<p>1. 幅広い利用者像（障害特性）に適したサービス提供体制</p> <p>（1）障害特性等に応じたチーム編成（チーム数・規模・活動場所）の検証</p> <p>（2）上記に基づく、改善策の検討・実施</p>	<p>1. について</p> <p>昨年度から先行して1階部分（重複障害のある利用者）のチーム編成について、より利用者の障害状況に即した支援を行うため2チームから3チームに変更した結果、利用者のニーズに応じた活動メニューの充実・拡大などにつながった。</p> <p>また、2階部分については、生活介護面における介護度だけではなく、各利用者の障害特性等も考慮したチーム編成を検討し、より効果的な支援の展開が図れるよう次年度に向けて検討会議を随時開催した。</p>
<p>2. 支援サービスの質的向上</p> <p>（1）生産活動の充実</p> <p>①現行作業の見直し・拡大化</p> <p>②新規作業の開拓 ＝他事業所の取り組みなどの情報収集など</p> <p>（2）職員の支援スキルの向上</p> <p>①ケースワークスキルの向上 ＝事例検討会（ケース会議とは別）</p>	<p>2. について</p> <p>（1）については、現行作業の見直しと並行して、新規作業としてペットボトルキャップの分別作業を導入し、利用者のスキルに応じた作業工程の提供につながり、現在の利用者の作業能力に適した作業種となってきている。</p> <p>（2）については、月1回定例の支援会議の中で事例検討会を実施した。また、その実践の成果と検証を行うため、内部実</p>

<p>実施 =内部実践報告会の実施 ②指導的立場の職員のコミュニケーション力の向上 =OFFJTの推進とフィードバック =OJT技術研修</p>	<p>実践報告会を実施し（3月23日、参加者40名）、ケースワークにおける課題解決のプロセスや検証手法などを学んだ。また、外部研修に延べ25名の職員が24研修に参加し、そこで学んだことをチーム会議等で他職員へフィードバックした。しかし、現時点では日々のサービス向上に十分つながっていない部分がある。</p>
<p>3. 社会資源の活用・連携 (1) 体験実習の推進 (2) 障害福祉サービスに係る情報提供 (3) 相談支援事業等関係機関との連携</p>	<p>3. について 進路支援を行うにあたり、市内の障害福祉サービス事業所14ヶ所の情報提供を行うとともに、利用者の体験実習機会を設けるなどを行った結果、ジョイントの「生活介護」へ4名、明光ワークスの「生活介護」へ4名、シエスタの「就労B」へ1名、い〜な・ゲーテンの「生活介護」へ1名、箕面市障害者たんぽぽ共働事業所「障害者事業所」へ1名、ささゆり園「生活介護」へ2名、わんすてっぷ「生活介護」へ1名、計14名の移行へつながった。</p>

(3) 今後について

- 利用者個々と地域社会とのつながりを図る活動を試行的に実施・検証する。
- 市内の他の事業所と連携し、事例を通じた学習会を実施して、日中活動の充実及び支援スキルの向上を図る。
- 各利用者の障害特性により適切に対応することを目的として、2階部分の利用者について現行2チームから3チームに再編し、サービスの質的向上を図る。
- 進路支援については、市内の他の事業所に係る情報提供及び斡旋調整を行うとともに、体験実習を実施し、選択・検討する機会を提供するなど、円滑な移行に繋げていく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

I 主な生産活動内容及び収入

生産活動内容	平成23年度	平成22年度	平成21年度
箕面市指定ごみ袋の生産	9,098,000円	8,877,975円	19,074,573円
さをり製品等製造販売	111,784円	153,770円	216,307円
ペットボトル、アルミ缶 等リサイクル	180,924円	111,561円	50,660円
農園芸	1,839,420円	1,678,647円	0円
ケーキ・パン等	652,018円	313,593円	0円
計	11,882,146円	11,135,546円	19,341,540円

II 利用者1人あたりの月額平均工賃（ボーナスを含んで換算）

平成23年度	平成22年度	対前年度比
10,453円	13,174円	79.3%

②その他の活動

- I 所外活動（買い物、社会見学など）
- II 音楽活動（音楽療法、音楽レクリエーション、ハンドベル等）
- III 健康維持活動（ウォーキング、ダンス、プール、リラクゼーション等）
- IV 機能訓練（月1回の作業療法士による訓練指導）
- V 創作活動（絵画、工作、クッキング等）

(5) 在籍者状況（平成24年3月31日現在）

項目	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
H23年度	62名	27.0歳	9.5年	93.4%	57.9名	
H22年度	66名	27.1歳	8.0年	94.7%	62.5名	
H21年度	32名	29.1歳	8.1年	91.3%	29.2名	
H23年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	22名	22名	8名	10名	0名	0名

5. わんすてっぷ（生活介護：定員15名）

（1）概要

- 「わんすてっぷ」（重度障害者市民自立生活支援棟）への短期入所事業移転に伴い、箕面市、箕面市障害者事業団、箕面市立あかつき園との調整の上、平成23年11月11日より、元箕面市障害者事業団緑化事務所へ移転した。また、その際の施設改修にあたっては、より利用者の障害特性や活動状況に応じた整備に繋がるよう施設配置案を作成・提案し施設整備にあたった。
- コンスタントな利用が障害特性上困難な精神障害のある利用者について、出席意欲を高める手立てとして、当該利用者が楽しみ、主体的に参加出来る運動会などのイベント活動の実施や、柔軟な送迎対応、そして、ご家族との連絡調整を継続的にを行い、安定的な利用につなげた。

（2）重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 定員外の受入 （1）定員15名→実利用者数16名	1. について 利用者の平均年齢が高い（47.2歳）ことから、年度途中において2名施設へ入所された。 その後新利用者の募集を行い、9名応募者があり、書類選考、実習を経て1名利用されることとなり、実利用者数は14名となった。
2. 知的・精神の重複障害や、自閉症に関する専門知識の習得など理論的根拠に基づく支援技術の向上 （1） 知的・精神の重複障害や自閉症に係る専門研修への参加 （2） 専門家の助言・指導 （3） 精神障害者支援機関との連携 （4） 利用者個々の支援の標準化	2. について （1）精神保健福祉業務従事者研修、対人援助技術研修等への参加により、面接技術や発達障害等に係る基本的な知識の習得を図った。 （2）支援の質的向上を図るため、嘱託医、支援アドバイザー、作業療法士の助言を得て、利用者の障害特性に応じた支援の検討を行った。 （3）ケース会議等においては、会議資料については、「検討課題・論点」、それに係る「蓄積した記録の記載」など、論点のポイントなどが明確になるよう工夫することで、議論の効率化や支援の統一化が促進

	した。
<p>3. 利用者のニーズに応じた、多様な日中活動の提供</p> <p>(1) 新規活動の検討と試行的取り組み及び評価</p>	<p>3. について</p> <p>季節毎の定例イベント（花見など）は、これまでの経験により、見通しがもてるようになり参加に対する不安感が軽減した。また、運動会などは、その練習の過程で普段は身体を動かす活動を敬遠される方も積極的に参加する場面が見受けられ、利用者にとってわかりやすい「目標」がある活動を提供する大切さを改めて感じた。</p>
<p>4. 個別面談や家庭訪問等による情報収集</p> <p>(1) 個別面談や家庭訪問等による情報収集</p> <p>(2) 障害福祉サービスに係る情報提供</p> <p>(3) 相談支援事業者等関係機関等の連携</p>	<p>4. について</p> <p>連絡帳、電話、訪問等により、本人・ご家族の状況把握を適時行い、必要に応じて、短期入所事業や成年後見制度、相談支援事業「ウイズ」の紹介等を行った。</p>

(3) 今後について

<p>○計画では16名を目指していたが、逆に14名になってしまったので、早期に新たな利用者を確保するとともに、一部の週4日利用者を週5日利用につなげていくなど利用率向上を図っていく。</p> <p>○利用者の主たる介護者（ご家族）の高齢化に伴い、親亡き後の生活について、相談支援事業者及び介護保険事業等との連携を図るなど、年齢や障害状況に応じた支援策について検討する。</p>
--

(4) 主な活動内容

- ①文化創作活動（カラオケ・Wi iゲーム・さをり織り 他）
- ②健康支援活動（レクリエーション・スポーツ・プール・ウォーキング 他）
- ③専門職による相談・指導（機能維持訓練・嘱託医による相談・ダンス指導）
- ④所外活動（なんばグランド花月・カラオケ・ヴィソラで映画鑑賞「源氏物語」・天王寺動物園）
- ⑤季節毎のイベント（花見・七夕・運動会・クリスマス・バレンタイン・ひな祭り 他）

⑥生産活動

I 主な生産活動内容及び収入

生産活動内容	平成23年度	平成22年度	対前年度比
さをり製品等の制作・販売	56,080円	94,560円	59.3%
チラシ配布委託業務	71,606円	68,985円	103.7%
計	127,686円	163,545円	78.0%

II 利用者1人あたりの年額平均工賃

平成23年度	平成22年度	対前年度比
8,876円	11,292円	78.6%

(5) 在籍者状況（平成24年3月31日現在）

項目	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
H23年度	14名	47.2歳	8.3年	94.0%	12.4名	
H22年度	15名	45.1歳	6.7年	91.5%	13.4名	
H21年度	16名	45.9歳	6.6年	92.9%	12.3名	
H23年度利用者 障害程度区分	区分6 0名	区分5 5名	区分4 5名	区分3 4名	区分2 0名	区分1 0名

6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園

(1) 園管理事業

①概要

○障害者問題市民講座については、昨年に引き続き「地域で生きる」をテーマとし医療的ケアを要する最重度の障害者市民の地域生活について講座を開催した。

○貸館利用に関しては、前年度に比べ団体数、事業別利用状況とも微増となり（4団体増、前年度比105.0%）、ボランティア育成事業（手話、音訳講習）参加者は、開催年度、実施内容（初級～上級）により若干増減があるが、対前年度比で65.5%と減少した。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 地域交流、ボランティア育成の在り方等の検討 (1) 情報発信及び事業PRの推進（生活介護事業とリンク） → 生活介護機関誌「和」の活用	1. について (1) 外部向けの機関誌の作成までには至らなかったが、新たに導入したブログを活用し、適時情報発信を行った。

<p>(2) 交流内容の検討(生活介護事業とリンク)</p> <p>①近隣小中学校等との交流</p> <p>②ボランティア受け入れ、育成</p> <p>(3)市内ボランティア育成団体との連携(継続)</p> <p>→社協ボランティアセンター、NPO法人市民活動センター等</p>	<p>(2) 地域交流</p> <p>①福祉体験学習の受け入れ(第三中学:1名)、吹奏楽部によるブラスバンドコンサート(第二中学、年3回:延べ124名)の開催</p> <p>②ライヤーコンサート(シュタイナー子ども園)、紙芝居、素話(ポコアポコ)、おのりく氏(作詞家)演奏会</p> <p>(3)他団体と連絡調整、調査研究を行うに至らなかった。</p>
<p>2. 「地域で生きる」障害者問題市民講座の開催(パート2)</p>	<p>2. について</p> <p>「地域で生きる」障害者問題市民講座の開催</p> <p>○開催日時 平成24年3月18日(金) 午後6時30分～8時45分</p> <p>○実践報告 社会福祉法人さつき福祉会 「吹田市立障害者支援交流センターあいほうぶ吹田」 副施設長 竹内 恵子 氏</p> <p>○コメンテーター 同志社大学社会学部社会福祉学科 教授 小山 隆 氏(当福社会理事)</p> <p>○参加者 42名</p>

③今後について

- 社会参加促進事業(茶道・華道教室)については、次期指定管理(平成26年～30年)を踏まえ、本事業の実施内容・効果の検証やニーズの把握を行い、新規事業も含め箕面市と継続協議を行う。
- 障害者問題市民講座は、広報・事前宣伝の充実、実施内容・開催時期等を検討し、次年度も継続実施する。
- 管理コストを必要とする夜間貸館利用に関しては、箕面市と協議しつつ障害者関係団体以外の利用については、一定の制限を行う。
- ブログと連動した外部向け機関誌を作成・配布する。

④ささゆり園利用状況

- 会議室等使用団体数(平成24年3月31日現在)
 - ・定期利用団体: 35団体(対前年度2増)
 - ・随時利用団体: 48団体(対前年度2増)
- 合計83団体(対前年度4増)

	23年度	22年度	対前年度比
開館日数	323日	322日	100.3%
利用件数	2,052件	2,035件	100.8%
利用件数/1日	6.4件	6.3件	101.6%
利用者数	27,276名	25,991名	104.9%
利用者数/1件	13.3名	12.8名	103.9%
利用者数/1日	84.4名	80.7名	104.6%

⑤事業別利用状況

事業名 (内 訳)	23年度		22年度		対前年度比 (人数比)	
	件数	人数	件数	人数		
障害者社会参加促進事業	43	196	40	199	98.5%	
内 訳	①茶道教室	21	84	19	87	96.6%
	②華道教室	22	112	21	112	100.0%
ボランティア育成事業	34	200	36	305	65.6%	
内 訳	①手話講習会「基礎課程」	23	130	25	189	68.8%
	②初級音訳講習会（前年は上級）	11	70	11	116	60.3%
啓発事業（障害者問題市民講座）	1	42	1	49	85.7%	
貸館事業	1,974	26,840	1,958	25,438	105.5%	
内 訳	①障害者団体	718	12,505	701	11,576	108.0%
	②ボランティアサークル	482	5,996	479	6,527	91.9%
	③外郭・行政関係	147	2,769	130	2,065	134.1%
	④その他	557	5,478	552	5,108	107.2%
	⑤IT室	70	92	96	162	56.8%
合 計	2,052	27,278	2,035	25,991	105.0%	

(2) 生活介護事業：定員20名

①概 要

- 箕面市と協議を行い、利用に係る基本ルール（利用対象者）について、原則として医療的ケアを必要とする65歳未満の方で、かつ重度重複障害（身障1、2級+療育手帳A等）の方を優先することとし、説明会（11/17）を開催した。
- 利用契約者数を1名増加（週1日利用）したことに伴い、利用率は昨年度より微増（22年度：84.4%→23年度：84.7%）したが、本園利用者の障害状況（障害の進行に伴う長期入院、他施設への移行等）により、介護給付費収入は当初予算の94.1%にとどまり、約370万円下回った。医療的ケアを必要とする重度障害者市民の利用予測、事業経営の難しさを痛感した。
- 利用者が心身ともにリラックスできるよう、活動スペースの一部にカーテンやスヌーズレン機器を設置し環境整備を行った。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
<p>1. 調査研究及び積極的な研修への参加（継続）</p> <p>(1) 類似事業実施法人への調査 → 個別支援プログラムの在り方、検証方法等</p> <p>(2) 関連研修への積極参加</p> <p>(3) 近隣大学等との協働研究</p>	<p>1. について</p> <p>(1) 市民講座の打ち合わせを兼ねて「あいほうぶ吹田（吹田市）」を見学、情報収集を行った。</p> <p>(2) 医療的ケア研修セミナーや看護師指導者研修（介護職員による痰吸引等指導）等に参加した。</p> <p>(3) インターンシップ制度の導入等については検討できなかった。</p>

<p>2. 支援サービスの質的向上</p> <p>(1) マニュアル及び研修体制の確立</p> <p>①介護技術の標準化、マニュアル化の推進</p> <p>②新任職員、ヘルパーへの研修体制の確立</p> <p>(2) 提供プログラムの見直し</p> <p>①行事のあり方の検討</p> <p>②ナイトプログラムの試行</p> <p>(3) 機関誌「和」掲載内容の改善（地域への情報発信を前提に）</p>	<p>2. について</p> <p>(1)</p> <p>①一部ではあるが、写真等を使用した介護マニュアルの作成や請求事務等のマニュアル作成を行うことにより、介護技術や事務業務の標準化を図った。</p> <p>②新規採用職員（臨職）に対して、安全・適切な身体介護技術、てんかん、脳性まひ等の研修も継続的に実施した。</p> <p>(2)</p> <p>①委託業者（テストィバル）と連携を図り、行事食（3回：流しソーメン、餅つき、鍋）の提供を行った。</p> <p>②通常のサービス提供時間と異なる時間帯（14:00～20:00）で活動提供を行うことにより、職員の知り得ない利用者的一面（排尿リズム等）を知る機会、花火等で季節を感じて頂く機会、職員及び利用者同士の交流を深める機会となった。</p> <p>(3) 園管理事業の項を参照</p>
<p>3. 雇用の安定化</p> <p>(1) 定着率の向上</p> <p>→職員への個別懇談実施（継続、年2回）</p>	<p>3. について</p> <p>(1) 年2回、管理職との個別面談を実施した。その結果「日常的に相談・提案等が出来るようになった」旨の意見、感想を多数聞くことができた。</p>
<p>4. 地域交流・啓発の在り方</p> <p>(1) 近隣小中学校等との交流</p> <p>(2) ボランティア受け入れ、育成</p>	<p>4. について</p> <p>園管理事業の項を参照</p>

③今後について

<p>○医療的ケア実施体制の充実（指導看護師による介護職研修の適時実施等）を図ると共に他法人への調査研究や積極的に研修参加する。</p> <p>○職員個別面談は継続実施し、職場風土の改善と職員定着率向上に努める。</p> <p>○ブログと連動した外部向け機関誌を作成し、配布する。</p>
--

④主な活動内容

- A 健康維持活動（バイタルチェック、医療的ケア、プール、足浴、ダンス活動）
- B 機能訓練（月1回の作業療法士による訓練指導及び日常のエクササイズ）
- C 創作活動（さをり織り、組み紐、イベント開催時等の飾り付け）
- D 園外活動（買い物、散歩、NHK大阪見学）
- E 音楽活動（カラオケ、音楽鑑賞）
- F ゲーム活動（ボウリング、フロアダート、風船バレーなど）
- G イベント（季節行事：年5回実施）

⑤ 医療的ケア実施状況

内 容		人数
たんの吸引	口腔内	9名
	鼻腔内	1名
	気管カニューレ内部	4名
経管栄養	胃ろう	3名
	腸ろう	1名
	経鼻経管栄養	3名
胃ろう、腸ろうによる与薬		3名
ブジー		1名
合 計（延べ人数）		25名

⑥ 在籍者状況（平成24年3月31日現在）

項目	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
H23年度	22名	40.4歳	6.0年	84.7%	15.4名	
H22年度	21名	40.0歳	5.3年	84.4%	16.1名	
H21年度	20名	40.1歳	4.5年	84.1%	15.7名	
H23年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	18名	1名	3名	0名	0名	0名

(3) 放課後教室（日中一時支援：定員10名／1日、1人あたり／週2回）

①概要

- 待機者解消に向け、平成22年度より利用定員を1日8名→10名に増員。
平成24年3月末現在の待機者：11名（前年同月15名）
- 箕面市と協議の上、長期連続欠席者（3ヶ月以上）への対応を検討（平成24年度より適用）
- 平成24年度より施行された「放課後等デイサービス事業」の動向を調査。
→ 利用ニーズ：送迎、両立支援のための時間延長、等

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 優先順位の検討 (1) 利用の公平性、利用者・家庭状況等	1. について 利用希望曜日を調査し、公平性に配慮した曜日の設定を行った。また活動内容に関しては、各曜日についてサービスの均一化を図った。
2. 支援サービスの質的向上 (1) マニュアル及び研修体制の確立 ①介護技術の標準化、マニュアル化の推進 ②新任職員、ヘルパーへの研修体制の確立	2. について (1) ①事務的業務やトイレ介助等に関してのマニュアルを作成した。 ②新任職員には利用者のプロフィール資料を用いてオリエンテーションを行った。

<p>(2) 各種外部研修への積極参加</p> <p>(3) さまざまな工夫、環境づくり</p> <p>①利用者の相性等に配慮した利用日の設定</p> <p>②絵カードや写真等を用いて、予定や日課をわかりやすく伝える</p> <p>③多様な障害態様に対応するため、グループ活動や個別活動を組み合わせながら有意義な時間を過ごせるよう努める</p> <p>④個別支援計画の導入の検討</p>	<p>(2) 自閉症に関する支援方法等を学ぶ外部研修に参加し、スタッフ間で情報共有を行った。</p> <p>(3)</p> <p>①相性等に配慮した利用日設定を行った。</p> <p>②研修参加（ATAC研修会）の成果として、写真等を活用した視覚的に配慮した「月間プログラム」を提供し、利用者が「いつ・何をするのか」わかりやすくなり、これが安心感につながり、混乱等の軽減につながった。</p> <p>③保護者懇談会の開催や利用希望曜日調査を実施し、本人、ご家族の意向を聞き取りこれを活動プログラムへ反映させた。</p> <p>④計画的な支援を提供することと、放課後等デイサービス事業への移行も視野に入れ、試行的に個別支援計画を作成し、サービス提供を行った。（次年度も継続）</p>
<p>3. 放課後等デイサービス事業についての調査研究</p> <p>→ 現在「障がい者制度改革推進会議」等で議論されている放課後型デイサービス事業について、近隣自治体の取り組み状況への調査研究や情報収集を行う。</p>	<p>3. について</p> <p>○スマイルシード主催の学習交流会「子どもたちの日中活動を支える新制度とサービス」に参加、情報交換を行い、他事業所の今後の動向について把握した。</p> <p>○サービス管理責任者研修（児童デイサービス）に参加し修了した。</p>

③今後について

<p>○平成24年8月までに箕面市内、近隣に新たに「放課後等デイサービス事業」が3箇所開設されることもあり、次期指定管理（平成26年～30年）を踏まえ、本事業の実施内容・効果を検証し、新事業への移行又は事業の廃止を含め箕面市と継続協議を行う。</p> <p>○発達障害等への対応に関し、瀬川地域で導入している支援アドバイザーの助言を受けながら、個別の課題に応じた支援の在り方について実践・検証を行う。</p>
--

④主な活動内容

- A 健康活動 （散歩、プール）
- B 調理実習 （焼き菓子作り）
- C 創作活動 （コットンスティックアート、木工）
- D 農園活動 （野菜、草花栽培）
- E 所外活動 （公共交通機関の利用、社会見学）

⑤在籍者状況（平成24年3月31日現在）

項目	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
H23年度	25名	16.6歳	3.3年	85.0%	8.5名	
H22年度	25名	16.0歳	2.8年	85.5%	8.4名	
H21年度	21名	15.6歳	2.7年	87.2%	6.9名	
H23年度利用者	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
障害程度区分	0名	3名	1名	10名	7名	3名

* 障害程度区分未認定：1名（療育手帳のみ所持）

（4）施設入浴サービス：定員4名（男女各2名）／1日

①概要

○実施時間帯（平日夕方）、従事時間（1日2時間程度）の関係から、依然として従事者（登録ヘルパー）の確保が困難な状況にあり、不足分は生活介護スタッフで対応している。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
<p>1. 従事職員の確保</p> <p>（1）近隣への呼びかけ、ビラ配り → 時給1,500円、2～3時間</p> <p>（2）登録ヘルパー募集 → 近隣大学、専門学校へ（卒業時に後輩へつなぐ）</p>	<p>1. について</p> <p>（1）ボランティアグループへのビラ配布等を実施したが、ヘルパー確保には至らなかった。</p> <p>（2）学校を卒業するヘルパーに、卒業時に後輩の紹介を依頼し、ヘルパー登録に至った。</p>
<p>2. マニュアル及び研修体制の確立</p> <p>（1）介護技術の標準化、マニュアル化の推進</p> <p>（2）新任職員、ヘルパーへの研修体制の確立</p>	<p>2. について</p> <p>（1）（2）マニュアル化には至らなかったが、登録ヘルパーに対し、適時安全・適切な身体介護技術の指導を行った。</p>

③今後について

○登録ヘルパーの確保（機関誌、ビラ配布、ブログ等の活用）

○併せて登録ヘルパーに依存しない従事体制の検討

- ・入浴専門臨時職員（1日6h男女各1名）
- ・生活介護スタッフによる時差出勤対応。（時間外コストの削減）

○次期指定管理（平成26年～30年）を踏まえ、本事業の実施内容・効果を検証し、事業のあり方について箕面市と継続協議を行う。

→ 民間事業所の充実（ホームヘルパー、訪問入浴）

④入浴サービス利用状況（平成24年3月31日現在）

	23年度	22年度	対前年度比
実施日数	244日	243日	100.4%
利用者数	869名	852名	102.0%
利用者数／1日	3.6名	3.5名	102.9%

7. ウイズ（相談支援事業）

(1) 概要

- ウイズにおいては箕面市からの相談支援事業(市町村地域生活支援事業)を受託し、障害のある方やご家族等からの在宅生活でのあらゆる相談の受付や解決に向けた調整等を行った。
- 今年度の相談件数は延べ588件（昨年度583件）、実利用者60名（昨年度40名）、新規相談者24名（昨年度10名）であった。相談内容では「福祉サービスの利用」に関する相談が8割を占めた。
- 箕面市地域自立支援協議会や市町村相談支援事業分科会(大阪府知的障害者福祉協会)などに参加し、困難事例への対応方法の研究や制度改正等の情報収集等を行った。

(2) 重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
<p>1. 支援内容の充実</p> <p>(1)社会資源を利用していない在宅障害者と社会資源を結びつける</p> <p>(2)社会的入院となっている患者の地域移行を図る</p> <p>(3)家族の高齢化に伴い、世帯単位への支援を行う</p>	<p>1. について</p> <p>(1) 6名の内、2名が福祉サービスの利用を開始される。</p> <p>(2) 1名の方について、池田保健所、パオみのお等と共同で取り組みを行い、今年4月末に退院。 退院後、平日の日中は生活介護事業を利用。なお、週末は短期入所事業等を利用し、家族の負担軽減を図る。</p> <p>(3) 2名の方が介護者の高齢化により地域での生活が困難になり、施設へ入所することになった。1名は両親との3人暮らしで日中は生活介護事業を利用していたが、父親が脳梗塞で倒れ、母親にも認知症の症状が現れた。在宅ケアセンターと連携し、ヘルパー等で生活を支えたが、夜間など対応できない状況もあり家族の意向により、施設入所となった。</p>

	<p>また、もう1名の方は母親と二人暮らしで日中は小規模作業所に通われていたが母親に認知症の症状が現れ、二人での生活に支障を来すようになる。関東地方にお住まいのお姉さんより「二人とも近くによびたい。」との希望により関東地方の施設に入所する事になり、引き継ぎ等の必要な支援を行なった。</p>
<p>2. 権利擁護の推進</p> <p>成年後見人の必要性について理解促進を図る。</p>	<p>2. について</p> <p>6名の相談があり、2名の方が家庭裁判所に後見人選任の申出をされ、後見人が選任された。1名は複数後見で母親と市内在住の弁護士。もう1名はNPO法人権利擁護たかつきによる法人後見である。</p>
<p>3. 相談支援に関するノウハウのフィードバックを図る</p>	<p>3. について</p> <p>各福祉サービスのサービス管理責任者等との連携は行ったが、ノウハウのフィードバックとまで言えるものではなかった。</p>
<p>4. 制度改正への対応</p> <p>改正ポイント</p> <p>①給付費支給決定プロセスの見直し 給付費の支給決定前から指定特定相談支援事業者が関わりサービス等利用計画案を作成し、それに基づき市町村は福祉サービスの支給決定を行う。(指定特定相談支援事業が対応)</p> <p>②サービス等利用計画費(個別給付)給付対象者の拡大。平成24年度から3年間で障害福祉サービスを利用されている全ての方が対象になる。 (指定特定相談支援事業が対応)</p> <p>③病院、施設等からの地域移行支援、地域定着支援(365日24時間対応)個別給付化される。</p>	<p>4. について</p> <p>制度改正に伴い、ウイズとして実施する相談支援事業を検討した結果、以下の2事業を実施することとした。</p> <p>◎指定特定相談支援事業(計画相談等) 箕面市長より指定を受け平成24年度より実施する。</p> <p>◎指定一般相談支援事業(地域移行等) 対象者が見込めないため、大阪府知事のみなし指定期間(1年間)のみ実施する。</p> <p>なお、指定児童相談支援事業(計画相談等)については、児童の通所サービス利用に係る相談が見込めないため、指定申請を見送り、今後必要性があれば指定申請を行な</p>

<p>(指定一般相談支援事業が対応)</p> <p>④児童相談支援事業の新設 通所施設を利用する障害児のサービス等利用計画の作成(個別給付)。 (指定児童相談支援事業が対応)</p>	<p>う。</p>
---	-----------

(3) 特記事項

ア) ショートステイの利用に関する相談が最も多く92件あった。次いで施設入所に関する相談(77件)、入浴支援に関する相談(37件)、グループホーム・ケアホームの入所に関する相談(32件)となった。これらの要因としては、主たる介護者の高齢化によるものと考えられる。

イ) 困難事例

現在30歳代(男性)で療育手帳A判定(自閉症)の方は、中学校時代のいじめにより不登校になり、その後、在宅状態で福祉サービスは何も利用されず、現在に至っている。母親は集団に入ると、またいじめられるのではないかと心配されていて、家で過ごす生活が本人の安定には一番良いと考えておられる。しかし、本人は運動不足からくる肥満体型であるため、健康状態が危惧される。また、親の高齢化による介護力の低下も危惧されるため、定期的な訪問を実施し、福祉サービスの利用につながるような支援を行っていく。

ウ) その他

夜間に自宅から無断外出し行方不明になった方のお兄さんからウイズに連絡が入ったため、「みのお行方不明者SOSネット」を活用し、検索した結果、池田市内で警察に保護された。緊急時の公的なネットワークによる早急な対応での成果であった。

エ) 相談支援事業全体としては、すぐに対応できたケースから課題の解決まで時間が掛かったケースもあったが、588件の相談内、563件には有効な調整や助言・情報提供が行えた。また、困難事例25件(精神病院入院、ひきこもり等)については、引き続き関係機関とも協力しながら支援を行っていく。

(4) 今後について

- 新制度下での指定特定相談支援事業では利用者のニーズに応じたサービス等利用計画を作成し、他の事業所と連携して利用者が地域で充実した生活ができるよう支援する。
- 福祉サービスを利用していない方に働きかけを行い、地域で充実した生活ができるよう支援する。

(5) 平成23年度実績

① 相談経路別一覧

* 括弧内は児童の相談件数 (平成24年3月31日現在)

単位:人

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
訪問	4(2)	38(7)	274(6)	8(0)	324(15)
来所	2(0)	6(0)	44(0)	2(0)	54(0)
同行	-	1(0)	15(0)	-	16(0)
電話	4(0)	10(2)	158(1)	5(0)	177(3)
電子メール	-	-	10(0)	-	10(0)
個別支援会議	-	-	1(0)	6(0)	7(0)
合計	10(2)	55(9)	502(7)	21(0)	588(18)

② 相談内容別一覧

* 括弧内は児童の相談件数 (平成24年3月31日現在)

単位:人

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
福祉サービスの利用	6(2)	54(9)	391(7)	21(0)	472(18)
健康・医療	-	-	21(0)	-	21(0)
不安解消・情緒安定	-	-	3(0)	-	3(0)
家族関係・人間関係	-	-	2(0)	-	2(0)
家計・経済	-	-	17(0)	-	17(0)
生活技術	-	-	3(0)	-	3(0)
就労	-	1(0)	6(0)	-	7(0)
社会参加・余暇活動	4(0)	-	7(0)	-	11(0)
権利擁護	-	-	13(0)	-	13(0)
その他	-	-	39(0)	-	39(0)
合計	10(2)	55(9)	502(7)	21(0)	588(18)

8. 地域生活総合支援センター

(1) 箕面市障害者ショートステイ室 (短期入所事業・日中一時支援事業)

①概要

- 平成23年度は瀬川地区への短期入所事業の拡大移転の実施の年となった。
 これまで「必要なときに使えない」「緊急時に不安」との利用者のみなさんの多くの声に応える方法を市とともに検討していたが、瀬川の「わんすてっぷ」(重度障害者市民自立生活支援棟)を増築し、定員を現状の3名から8名に拡大することで箕面市と協議・合意を得た。そして、地域生活総合支援センター事務所も併設することで総合力を発揮できるよう計画を進めてきた。
- 工事着手までに設計業者、施工業者と2回の入札を実施したが、施工業者は落札者がなく、その原因が「地盤改良」であった事から地盤改良にかかる経費を捻出する

ため、設計図面を全面的に変更することとなった。そのため建築確認申請等の協議も全て白紙に戻り、工事着手が遅れた。工事着工後もガス、水道管等のトラブルに見舞われ、平成23年度中の工事完了が出来ず、結果的に平成24年4月23日に移転となった。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
<p>1. 相談支援事業及びケースワーカーとの連携によるニーズの掘りこし(現状の稼働率85%)</p> <p>2. 職員の確保及び定着率向上を図る</p> <p>3. 作業部会(ワーキンググループ)による地域生活総合支援センター再編計画の継続検討</p> <p>4. 多様な障害特性の理解と理論的根拠に基づく介護・支援技術の 実践</p> <p>5. セクシャルハラスメント及びパワーハラスメントの防止</p>	<p>1. について</p> <p>平成23年度の主な目標に利用率の向上及び再編に関する市と合同のワーキンググループで継続検討したが、瀬川への拡大移転の計画を年度内に実施することとなり、準備を進めた。</p> <p>利用者側からは、「定期的な宿泊をしたい」との要望が多かったため、拡大移転の際には「自立に向けた計画的な宿泊枠」を設けることで、利用者ニーズに応え、かつ運営面でも利用者を確保できることから「宿泊体験」枠を創設することとした。</p> <p>2. 4について</p> <p>日々の利用者に応じた、支援方法等を確認するとともに、経験の浅い職員にはその場その場で指導しながら、安全・安心なサービス提供に努めるとともに、精神的な負担による退職者もでなかった。</p> <p>3. について</p> <p>作業部会については今後市とともに「あかつき園再編」のワーキンググループとして、継続して検討することとなった。</p> <p>5. について</p> <p>平成22年度末に、職場環境を整備したが、その後の夜間勤務の状況などを適時確認するなど、再発防止に努めた。</p>

③今後について

- 平成24年度は平均利用率5床を目標に運営するため、利用の申し込み状況を検証しながら、利用者の確保の方策について検討したい。
- 定員が増加することによる、サービスの低下が生じないよう、介護マニュアルの見直しを含め職員の質の向上に努めたい。
- 所轄事業となった相談支援とともに24時間365日の「駆け込み寺」の機能を強化していきたい。

④ショートステイ室利用状況

	平成23年度	平成22年度	対前年度比率
延べ利用者数	1,482名	1,624名	
(1日平均)	4.1名	4.4名	91.1%
短期入所	957名	987名	
(1日平均)	2.6名	2.7名	96.9%
日中一時	525名	637名	
(1日平均)	1.4名	1.7名	82.4%

※平成23年度は2ヶ月間にわたって他害行為のある利用者が利用されていた事により、他の利用者の利用を制限したため利用率が減少している。

(2) 第2つながりの家、第9つながりの家（共同生活援助・共同生活介護）

①概要

- 平成23年度については運営日の拡大に取り組んできた。現在運営日に宿泊されない利用者さんが複数いたが、運営安定化のため、「運営日は全員宿泊してほしい」との依頼を行い、全員ご利用いただけるようになった。さらに休日利用の申し込みも増えているため、休日利用の際は世話人を別で確保するため、運営上の必要から当該住居の入居者全員に利用していただけるよう働きかけ利用率の向上に努めた。
- 年度ごとにあかつき福祉会が経営する日中活動の場での進路支援の結果、様々な事業所へ移行される利用者が増えてきて、移行先事業所の送迎時間と世話人の勤務時間にズレが生じたり、平日の臨時休業などもあり、世話人の勤務時間変更や平日日中時間帯に支援者を派遣する状況が増してきた。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
<p>1. 支援体制の再構築</p> <p>(1) 利用者の相性を考慮し入居者間の転居等も検討する</p> <p>(2) 個別の支援を充実させるため、ヘルパーの個人派遣利用を促進する。</p> <p>(3) 高齢化に伴う健康管理を充実させるため、通院等介助サービス活用を促進する(定期通院の充実)</p>	<p>1. ついて</p> <p>利用者の健康管理を充実させるため、通院等介助を利用し、通院機会を増やすなど取り組んできた。また、通院に同行する中で幼少期の既往症などこれまで知り得なかったこと(ご家族も現在治療が必要な状態でないため特に話されていなかったこと)などを知る機会となり、これらの情報を「医療個人カード」に記載し情報の充実化に繋がった。また、個別支援計画について今年度はケアホーム毎に計画・見直し時期を調整し、個々の計画の検討時間やご家族との懇談に十分な時間を確保した。</p>
<p>2. 職員の勤務に関する調査研究と安定確保</p> <p>(1) 夜間勤務者の勤務体制及び賃金調査の実施</p> <p>(2) 再雇用者増加に伴う人員確保(週4日勤務の補填)</p> <p>(3) 再雇用者期間満了に向けた職員育成(世代交代)</p> <p>(4) 職員募集の工夫</p>	<p>2. について</p> <p>夜勤者に関する調査研究については23年度中には実施できなかったため、平成24年度に実施していきたい。</p> <p>人員確保については、再雇用職員の勤務日数を5日にすることで、安定した従事体制が構築できた。</p> <p>世話人の育成は継続しているが、現在の勤務体制の見直しと合わせて実施する必要がある。</p>
<p>3. 作業部会(ワーキンググループ)による継続検討</p>	<p>3. について</p> <p>作業部会については今後、市とともに「あかつき園再編」のワーキンググループとして、継続して検討することとなった。</p>

③今後について

<p>○近年、ケアホーム入居者の急病による救急搬送や入院が年に1度程度発生しており、緊急時の連絡体制、救急搬送のマニュアルの再確認等、これまで作成したマニュアル等が活用できているか早急に検証する</p> <p>○平成24年度はあかつき福祉会日中活動施設から他事業所に移行される方が増えるため、日中活動の場、ご家族、ケアホームの連携を強化する。</p>

○利用率向上を図るため、現在土曜日にのみ帰宅時支援を行ってきたが、平成24年度より、土曜日と日曜日に帰宅時支援を実施し、日曜日まで運営するケアホームを増やし、運営日数の拡大と収入増を図る。

④在籍者状況（平成24年3月31日現在）

項目	平均年齢	平均利用率	昨年度平均利用率
女性（16人）	36.4歳	76.0%	75.6%
男性（18人）	40.5歳	79.1%	75.6%
全体（34人）	39.6歳	77.6%	75.6%

（3）ヘルパーステーション ウイズ

（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援）

①概要

○平成23年度は10月より同行援護が始まり、「ウイズ」でも1名の新規利用者にサービスを提供した。視覚障害者で自立生活をしている方への支援はこれまで経験したことがないため、連絡方法、書類の受け渡し方法等これまでにない支援方法を検討するきっかけとなった。
○通院等介助についてはケアホーム入居者を中心に短期間の支援や継続的な支援を含めて少しずつ増えている。定期通院の付き添いもあるが、新たに発病されたことに伴い通院されるケースもあり、今後は利用者の加齢に伴いさらに増えることが予想される。

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 経過的居宅介護派遣型ケアホームへの派遣継続 (1) CH・GH入居者へのホームヘルパーの個人派遣の実施 (2) CH・GH入居者の健康管理に伴う通院等介助の実施	1. について ケアホームへの個別派遣については定着しており人員の確保も安定している。また、通院への派遣ヘルパーも定着してきている。
2. 登録ヘルパーの育成 (1) 初任者研修の実施（事前研修） (2) 指導的立場にある職員の指導力向上	2. について 登録ヘルパーについては少しずつ増えており、初任者研修もその都度実施しているが、高齢者支援を中心に仕事をしてきた方や経験のない方もおり、今後も継続した研修が必要である。

3. 作業部会（ワーキンググループ）による継続検討	3. について 作業部会については今後、市とともに「あかつき園再編」のワーキンググループとして、継続して検討することとなった。
---------------------------	--

③今後について

<p>○平成24年度から地域生活総合支援センター事務所がショートステイ室に併設されるため、ショートの日中勤務者が通院同行等に従事できるようになり、常勤職員で派遣調整をする。</p> <p>○ケアホーム利用者の通院機会が増えることに伴い、通院等介助がさらに増える事が予想されるため、健康管理も合わせてケアホーム世話人とヘルパーとの連携をはかる。</p>

④平成23年度派遣状況及び平成22年度派遣状況

(単位：時間)

	居宅介護				移動支援	
	通院等介助		同行援護	身体介護	Ⅰ類 (身体介護あり)	Ⅱ類 (身体介護なし)
	身体介護有	身体介護無				
平成23年度	245.0	49.0	135.5	1,836.0	1,136.0	714.0
平成22年度	131.5	35.3		1,704.5	602.0	1,402.5

※通院等介助の派遣数が増加したのは、ショート利用者の医療的ケア対応で通院に同行したため。(2ヶ月間朝夕2回の同行)

※移動支援のⅡ類の派遣数が減少したのは、同行援護及びⅠ類に移行したため

(4) 箕面市在宅障害者自活訓練事業（自活訓練）及び箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業（生活訓練）

①概要

<p>○平成23年度は1泊～2泊の利用を中心に事業を実施した。</p> <p>○新規契約ヘルパーを確保するとともに、ヘルパーの調整に合わせて男女の訓練日を入れ替えるなどの取り組みで、「ヘルパー不足による訓練中止」という状況は発生せず、前年度より安定した事業の実施が可能となった。</p> <p>○「わんすてっぷ」増築工事に伴い、平成23年11月の訓練をもって両事業は中断し、箕面市と協議の結果、短期入所事業で「宿泊体験枠」を設け、両事業の機能を継続するものとし、平成23年度3月末をもって箕面市が両事業を廃止した。</p>

②重点項目・課題解決の状況

計 画	実施結果
1. 事業の安定的な実施	1. について 新規に契約ヘルパーを確保すると共に、ヘルパー勤務日と男女の訓練日を適時調整し、ヘルパー不足による訓練中止に至ることはなかった。
2. 支援サービスの質的な向上	2. について 登録ヘルパーに対し、障害特性に応じた支援方法や、身体介護の方法など、適時担当者が指導確認しながら、サービスの質的向上に努めた。
3. 持続可能な事業への転換	3. について 短期入所拡大移転に伴い、定期的な「宿泊体験利用枠」を設け、安定的・継続的な実施が可能となる。

③今後について

○両事業については廃止となったが、宿泊に関しては短期入所事業の一環として継続的・計画的な宿泊を実施し、地域での自立生活に繋がるサービスとして確立していく。

○これまでに訓練を修了された方で現在も在宅生活をされている方については、希望された場合は「宿泊体験」を利用していただく。

④平成23年度実績（実施期間：平成23年5月～平成23年11月「7ヶ月間」）

事業区分	登録者数(訓練実施者数)	延べ利用者数	実施日数
自活訓練	34名(18名)	175名	102日
生活訓練	4名(2名)	16名	16日
合 計	38名(20名)	191名	134日
	トワイライト	16名	16日

9. 地域参加・交流状況

①納涼祭

- *実施日・時 = 8月19日(金) 18:00~20:00
- *実施場所 = 瀬川地区敷地内
- *地域からの参加者 = 約350名
- *協力団体 = 6団体
- *利用者参加者 = 65名
- *職員従事者 = 58名
- *内 容 = 盆踊り、ゲームコーナー、模擬店、紙芝居など

②西南ジャンボリー

- *実施日・時 = 8月27日(土) 14:00~18:00
- *実施場所 = 西南小学校グラウンド
- *職員従事者 = 5名
- *内容 = 車いす体験コーナー
- *参加者数 = 94名(前年度150名)
- *実行委委員会 = 3回実施

③箕面市肢体不自由児者父母の会バザー

- *実施日・時 = 9月11日(日) 10:00~14:00
- *実施場所 = 箕面市立障害者福祉センターささゆり園
- *利用者参加者 = 1名
- *職員従事者 = 1名
- *内容 = さをり製品、パン等の販売

④いきいきふれあい広場

- *実施日・時 = 11月5日(土) 8:00~14:30
- *実施場所 = 西南公民館
- *利用者参加者 = 2名
- *職員従事者 = 7名
- *内容 = 野菜、さをり製品、パン等の販売

10. 職員研修実施状況

(1) 法人全体研修 (いずれも箕面市立ワークセンターささゆり3Fホールにて実施)

実施日	研修内容	参加者数	講師
平成23年4月28日	法人職員初任者研修	17名	法人職員(管理・監督職)
平成23年7月4日	財務管理研修	10名	村上税理士事務所
平成23年10月25日	国における障害福祉施策の動向、及び障害者の人権について	44名	東 俊裕氏 (内閣府 障がい者制度改革推進会議担当室長)
平成23年12月20日	職場のメンタルヘルス	26名	勝川美和氏 (箕面市産業保健師)
平成24年1月20日	コンプライアンスってなあに	31名	小野順子弁護士 (メイプル法律事務所)
平成24年3月19日	腰痛予防について	25名	大西 満氏 (藍野大学作業療法士学科長)

(2) - 1 事業・施設別研修参加状況

項目	平成23年度	平成22年度
法人本部	7名(5件)	10名(10件)
あかつき園	3名(3件)	5名(3件)
ワークセンターささゆり	25名(24件)	9名(9件)
わんすてっぷ	7名(6件)	2名(2件)
ささゆり園	16名(13件)	35名(15件)
相談支援	4名(4件)	6名(6件)
地域生活総合支援センター	3名(3件)	4名(4件)
合計	65名(58件)	71名(49件)

(2) - 2 事業・施設別研修内容等

項目	研修内容
法人本部	平成23年安全運転管理者等法定講習、社会福祉法人新会計基準セミナー、社員をオンリーNO1にまで高めブランド化する方法など
あかつき園	相談支援従事者初任者研修、平成23年度サービス管理責任者研修、発達障害を伴う知的障がい関係機関研修会など
ワークセンターささゆり	サービスナー・セミナー初級・中級、施設職員の心のケアを考える、てんかん基礎講座、発達障害を伴う知的障害関係機関研修、感覚機能障害者介護のためのモデル研修、コンプライアンスセミナー-食品の安心・安全など
わんすてっぷ	障がい児者施設課程研修、発達障害を伴う知的障がい関係機関研修会、精神保健福祉業務従事者研修「ステップアップ研修」、対人援助技術研修など
ささゆり園	スーパーバイザー養成のための障害児・者施設専門セミナー、サービスナー・セミナー初級・中級、ATAC研修、介護職員によるたんの吸引等の実技のための指導者養成研修(特定の者)、医療的ケアワークショップなど
相談支援	障がい者虐待防止・権利擁護研修、指定一般・特定・障がい児相談支援事業者指定時研修など
支援センター	ケアホーム・グループホームの防災対策、福祉職員研修【指導的職員】、全国グループホーム等研修会など

1.1. 実習生受け入れ状況

①進路支援に係る実習

受け入れ施設	実習もと	実人数	述人数	述日数	目的
あかつき園	箕面支援学校	1名	2名	2日	支援学校卒業後の進路先を検討するため
	豊中支援学校	6名	12名	12日	
ワークセンター ささゆり	箕面支援学校	2名	2名	2日	
	豊中支援学校	3名	6名	6日	
	大阪市立盲学校	1名	1名	1日	
ささゆり園	箕面支援学校	2名	2名	2日	
	ワークセンター	2名	2名	2日	
わんすてっぷ	ワークセンター	2名	4名	4日	
	合計	20名	31名	31日	

②その他

受け入れ施設	実習もと	実人数	述人数	述日数	目的
あかつき園	箕面市	1名	4名	4日	新任監督者研修
	箕面市立第3中学校	1名	1名	1日	職場体験実習
ワークセンター	箕面市	3名	3名	3日	福祉体験学習
	箕面学園福祉保育専門学校	2名	10名	10日	介護等体験実習
	箕面市立第3中学校	1名	1名	1日	職場体験実習
	ふるる	1名	3名	3日	職員研修
わんすてっぷ	箕面市	2名	2名	2日	福祉体験学習
	箕面学園福祉保育専門学校	1名	1名	1日	体験実習
ささゆり園	パソナソーシング	1名	1名	1日	体験実習
	箕面学園福祉保育専門学校	1名	1名	1日	体験実習
		1名	10名	10日	資格取得実習
	箕面市	4名	4名	4日	福祉体験学習
	合計	19名	41名	41日	

12. ボランティア受け入れ状況

事業・施設名	参加内容	参加回数	述べ参加者
あかつき園	製袋作業	211回	211名
ワークセンター	日中活動	48回	52名
	所外活動・イベント	19回	48名
わんすてっぷ	日中活動	45回	45名
	所外活動・イベント	12回	21名
ささゆり園	コンサート、紙芝居	7回	202名
	合計	342回	579名

13. 視察・見学状況

①受け入れ状況

施設・事業	視察・見学もと	人数	目的
あかつき園	箕面市立西南小学校	13名	施設見学
	箕面市立第6中学校 特別支援学級保護者	8名	進路に係る社会資源の視察
	豊中支援学校高等部 保護者、教員	7名	進路に係る社会資源の視察
ワークセンター	箕面市立西南小学校	13名	施設見学
	箕面市立第3中学校	4名	福祉体験学習
	豊中支援学校高等部 保護者、教員	8名	進路に係る社会資源の視察
	大阪府肢体不自由児 者父母の会連合会	26名	施設見学
	箕面支援学校	4名	進路に係る社会資源の視察
ささゆり園	NPO 法人ライフポイントネット	5名	施設見学
	箕面市立第3中学校	6名	福祉体験学習
	大阪府肢体不自由児 者父母の会連合会	26名	施設見学
	箕面支援学校	3名	進路に係る社会資源の視察
	合計	123名	

②視察・見学実施状況

施設・事業	見学・視察先	人数	目的
あかつき園	明光ワークス	2名	進路支援
	い～な・ゲーテン	2名	進路支援
	い～な・育成園	2名	進路支援
ワークセンター	明光ワークス	2名	進路支援
	い～な・ゲーテン	2名	進路支援
ささゆり園	吹田市立障害者支援 交流センター	2名	医療的ケアに係る視察

14. 講師派遣状況

派遣先	件名	派遣講師
箕面市立第3中学校 PTA	3中校区まちかどウォーク	加藤隆之
箕面市肢体不自由児者父母の 会	夏期療育キャンプボランティア 介護基礎講習会	家村昇平
スマイルシード	子供たちの日中活動を支える 新制度とサービス	浅井慎士
NPO 法人ラポール（ジョイン ト）	人権研修	亀谷雅彦 藤岡祥子
箕面学園福祉保育専門学校	移動支援従事者研修（同行援 護、全身性障害）	三阪義英

15. 社会福祉法人あかつき福祉会 役員名簿
(1) 理事

平成24年3月31日現在

役職名	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
理事長	庄司修三郎	箕面ロータリークラブ	元会長	学識経験者
副理事長	名淵須和子	箕面手をつなぐ親の会	会長	社会福祉団体
常務理事	稲田 滋	あかつき福祉会	施設長	施設長
理事	平野クニ子	箕面市社会福祉協議会	会長	学識経験者
理事	井上 義人	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	学識経験者
理事	小山 隆	同志社大学社会学部	教授	学識経験者
理事	川部 三郎	箕面市身体障害者福祉会	視覚部会会計	社会福祉団体
理事	千馬外代美	箕面市肢体不自由児者父母の会	会長	社会福祉団体
理事	吉田 功	社会福祉法人暁光会 あかつき特別養護老人ホーム	施設長	社会福祉施設
理事	寺内 勇	社会福祉法人翠明社 特別養護老人ホーム 照葉の里	監事	社会福祉施設
理事	欠員			

(2) 監事

平成24年3月31日現在

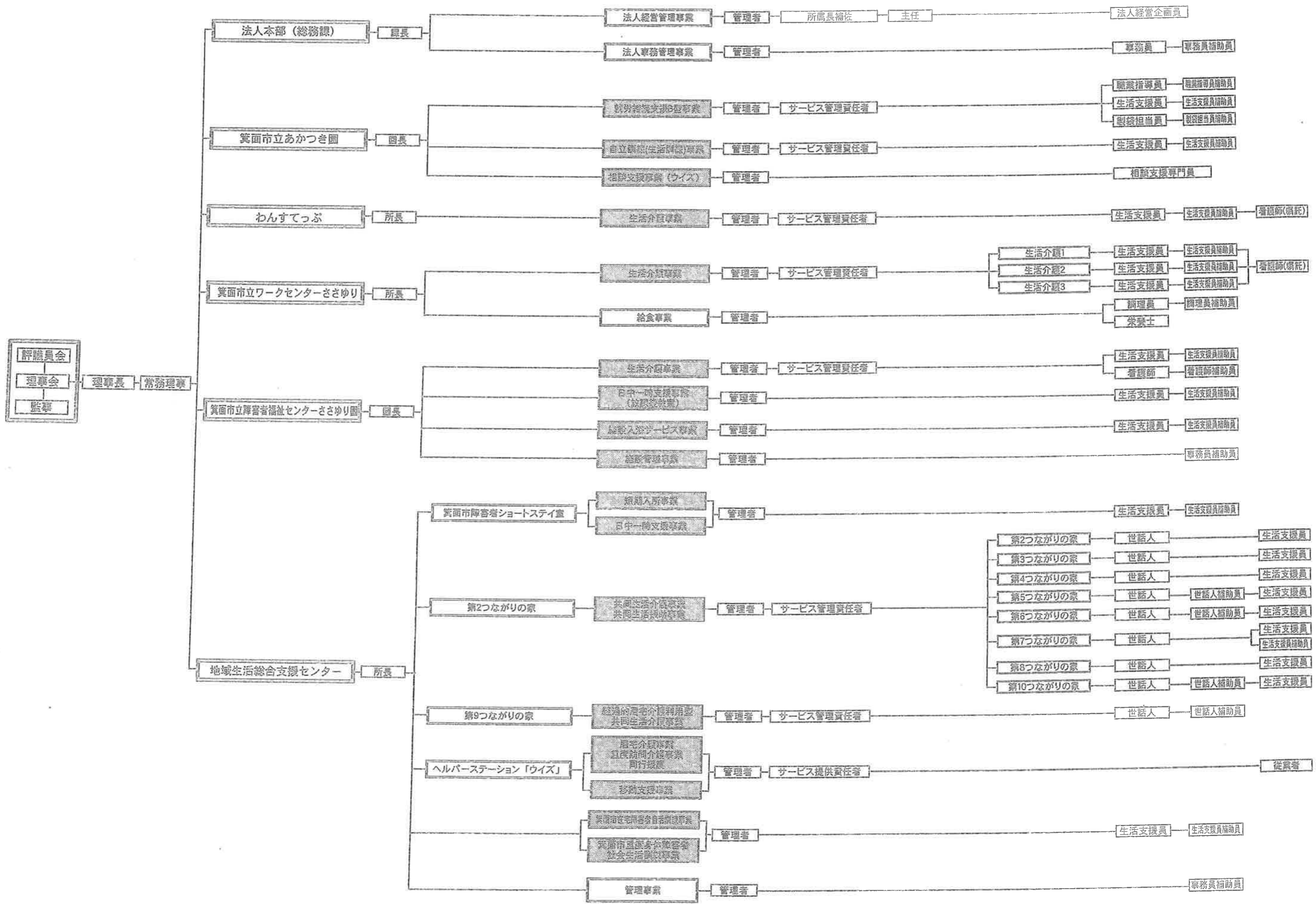
役職名	氏名	選出団体	役職名等	区分
監事	西脇 悟	箕面ロータリークラブ	幹事	学識経験者
監事	清水 朋子	箕面市会計室	会計管理者 兼室長	行政関係

(3) 評議員

平成24年3月31日現在

役職名	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員	井上 隆志	箕面市社会福祉協議会	常務理事 兼 事務局長	地域の福祉関係者
評議員	中井 啓二	箕面市社会福祉協議会	西南小地区福祉会会長	地域の福祉関係者
評議員	甲斐 節男	西南小地区民生委員児童委員委員会	西南小地区委員長	地域の福祉関係者
評議員	下司 良一	箕面市障害者事業団	就労支援課長	地域の福祉関係者
評議員	濱口 忠	箕面市身体障害者福祉会	常任理事	地域の福祉関係者
評議員	石黒恵津子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	高橋 栄子	箕面市肢体不自由児者父母の会	会計監査	地域の福祉関係者
評議員	中瀬 光夫	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団	特別養護老人ホーム 白島荘 荘長	地域の福祉関係者
評議員	植田恵美子	社会福祉法人息吹	理事長	地域の福祉関係者
評議員	満石 和彦	社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団	明光ワークス所長	地域の福祉関係者
評議員	加藤 隆之	社会福祉法人あかつき福祉会	箕面市立障害者福祉センターささゆり園 園長	地域の福祉関係者
評議員	亀谷 雅彦	社会福祉法人あかつき福祉会	箕面市立ワークセンターささゆり所長・総務課長	地域の福祉関係者
評議員	川端 崇且	箕面ロータリークラブ	社会奉仕委員会委員長	学識経験者
評議員	中神 康男	大阪府立豊中支援学校	進路指導主事	学識経験者
評議員	爲永 順子	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
評議員	立見五十七	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
評議員	浅岡 建三	浅岡・瀧法律会計事務所	弁護士	学識経験者
評議員	南 富治	元箕面市職員		学識経験者
評議員	後藤 統雄	赤十字奉仕団	西南小地区福祉会 副会長	学識経験者
評議員	嵯峨誠之輔	大阪府立箕面支援学校	進路部副主担	学識経験者
評議員	一階世志明	箕面市立中央図書館	館長	行政関係
評議員	南山 晃生	箕面市教育委員会教育推進部 人権教育課	課長	行政関係
評議員	浅野 美子	箕面市健康福祉部 障害福祉課	課長	行政関係

16. 平成23年度社会福祉法人あかつき福祉会組織図



17. 平成23(2011)年度社会福祉法人あかつき福祉会 職員内訳

平成24年3月31日現在

部 局 名	正規職員	支援職員	臨時職員	合 計
法人本部	2名	2名	1名	5名
あかつき園	3名	4名	6名	13名
わんすてっぷ	1名	2名	1名	4名
ワークセンターささゆり	6名	8名	31名	45名
障害者福祉センターささゆり園	2名	5名	15名	22名
相談支援	1名			1名
地域生活総合支援センター	3名	16名	12名	31名
厨 房	1名	2名	5名	8名
合 計	19名	39名	71名	129名

注1) あかつき園には、製袋を含む

注2) 厨房の支援職員は、障害者職員

注3) 臨時職員数には、バス添乗等の短時間勤務職員を含む

注4) その他、登録ヘルパー 約55名(実質稼働者数)